

令和3年度岐阜県青少年美術展少年部の選定評

絵画・デザイン	幼・保	家庭や園での生活や遊びを通して体験したり、ふれ合ったりしたことを題材にした作品が多く見られた。特に、自分が大好きな家族や友だち、小動物などを描いた作品には、幼児のすばらしい感性が、大胆な中にもよく観察された細やかなタッチ、色彩で表現され、絵を描いている情景が浮かんできた。今後もこの感性を大切にしたい。
	小学校 低学年	低学年では、体と心を目いっぱい働かせつくることを楽しむ営みを大切にしたい。その中で、今回は、感動したことや想像したことを画面いっぱいにのびのびと表した作品がよく見られた。色のぬり込みや表情から、感動と熱が伝わっている。今後も、発達段階に合った子どもたちの表したい思いと力が発揮できる題材を考慮したい。
	小学校 高学年	見たことや体験したこと以上に、共通のテーマや物語をもとに、イメージをふくらませ、表現された作品が数多く見られた。パスや絵の具、版など、材料や技法は異なっても表現したい思いが伝わってくる作品を選定した。その年齢ならではの表現を大切にしながら、子どもたちの絵に表す喜びを感じていただければ、幸いである。
	中学校	中学生のみずみずしい感性が感じられる作品が多く見られた。希望や不安、郷土への思いなど、今感じていることを表現できる題材を今後も大切にしたい。また、新しい絵画材や技法を取り入れた作品も見られた。作者が作品づくりを楽しんでいることが伝わってくるような作品を今後も期待したい。
書写	幼・保 小学校 低学年	半紙いっぱいにのびのびと力強く書き上げられた作品が多かった。整った美しい文字であるとともに、筆を持つ子どもたちの人となりや書に向かう姿勢、澄んだ瞳が伝わる作品ばかりであった。字配りがよく考えられており、作品の中心を整えて、落ちつきと美しさのある作品となっている。子どもたちの今後に期待が高まった。
	小学校 高学年	漢字仮名交じり作品では、平仮名を漢字に調和させ、まとまりよく書いていた。学年が上がるにつれて、名前を含めて完成度がより高くなっており、子どもの成長を感じた。最優秀作品は、紙面いっぱいに力がみなぎっており、躍動感あふれた個性が伝わってきた。名前も作品の一部として、さらに向上させていきたい。
	中学校	行書における力強い筆圧と滑らかな筆脈によって素晴らしい作品が多かった。始筆の確かさと終筆の伸びやかさも良く、何回も練習を重ねた成果がよく表れている。作品全体の仕上がりとして、名前のバランスが悪い作品もあり惜しいものとなっている。文字の美しさは、その人の宝物であり、これからも鍛錬を重ねたい。